

受賞団体の活動の概要

<農林水産大臣賞> - 総合的に優れた取組み

豊岡市 祥雲寺区、コウノトリ市民研究所（兵庫県豊岡市）

平成17年のコウノトリの野生復帰を目指し、行政と市民団体、農業者団体等多様な活動団体が連携して活動。コウノトリの生息環境作りのため、水田ビオトープ、水田魚道整備、環境保全型の農業の試行等、様々な取組みを総合的に実施。



県立コウノトリの郷公園での飼育状況



転作田のビオトープ化

<農村振興局長賞> - 農業農村振興・地域づくりに向けた取組み

西鬼怒の川に親しむ会（栃木県河内町）

生態系に配慮したほ場整備事業の先進事例。農業者・市民・行政・企業・大学が一体となり、生態系保全水路等の整備・管理により、人と自然が共生できる農村自然環境を復元。地域の歴史や自然環境を子供たちと一緒に学ぶ体験活動、都市・農村対流活動等を幅広く展開。



どじょう水路



生態系保全水路での植栽作業

<自然環境局長賞> - 自然生態系の保全・再生に向けた取組み

耳納塾・おたから堀の会（福岡県田主丸町）

絶滅危惧種のヒナモロコ（淡水魚）の生息地を中心とした農村環境の保全活動を実施。石積み・土床の多自然型水路「おたから堀」を設け、地域住民等が参加した水路の管理活動やヒナモロコ里親制度、子供たちによる飼育や自然体験等を展開。



ヒナモロコのすみかのおたから堀



子どもたちによるおたから堀の生物調査

＜朝日新聞社賞＞ ー活動内容が幅広く、社会的貢献度が高い取組み

環境稲作研究会（福岡県前原市等）

安全な作物の生産という次元から一歩進んで、自然環境の影響を把握し、自然環境の維持と再生を図る農法を実施。地域農業への普及活動、地域の子供たちに対する環境教育、体験学習なども幅広く実施。生物除草による減農薬栽培の水稻は、広く消費者に受け入れられている。



虫見板による害虫調査
(株元をたたいて落ちた害虫の数を調査)



現地水田での生物除草の説明模様

＜子どもと生きもの賞＞ ー子供たちの環境教育への取組み

田んぼネット、御調町源五郎米研究会（広島県御調町）

水田の一辺に「ヒヨセ」と呼ばれるかんがい用の明渠を設けてゲンゴロウなどの生息環境の保全を農家や学生などで実施。減農薬栽培も実施し、「源五郎米」として都市住民に販売。地元小学校において、田んぼの生き物や農業の役割を紹介し、わんぱく坊主の復活を目指すなど、環境教育に大いに寄与。

＜パートナーシップ賞＞ ー多様な主体が連携した取組み

里山まるごと体験学校（福島県鮫川村）

自然豊かな魅力ある地域づくりを目指して、集落内の各組織、自治体等が連携し、さらには都市住民や研究者の参加を得て、里山の保全を中心とした地域の環境保全に取組み、地域を活性化。景観作物の栽培や休耕田ビオトープの設置、里山の散策路等の整備、田植え・木炭づくりなどの里山農業体験を展開。

＜オーライ！ニッポン賞＞ ー都市と農村の共生・対流によって実施している取組み

細越ホタルの里の会（青森県青森市）

ヘイケボタル、ゲンジボタルが同時に生息する北限である本地域を”ホタルの里”と位置づけ、休耕田の復元やホタル繁殖水路の造成による生息環境づくりを地域ぐるみで実施。ホタル祭りでは、都市部から三千人が来訪し、生態系の保全を通じて、都市と農村が行き交う村づくりに結びついている。

＜まちなかのふるさと賞＞ ー都市部における優れた取組み

山崎の谷戸を愛する会（神奈川県鎌倉市）

都市公園計画地内の谷戸の生態系を市民が自らの手で保全し、自然観察・環境教育の場として活用。都市部における農文化の伝習体験の場となり、会員は630名に拡大。